

健康都市について—吉林省通化市を事例として—

3810120004

趙 明明

Healthy cities movement: A case study of the Tonghua city

ZHAO MingMing

After World War II, urbanization of the world is progressing rapidly. At the same time, the medical technology is remarkable. Lalonde who was the Minister of Health of Canada announced in 1974, has transferred emphasis to health promotion to disease prevention. In 1979, based on the basic concept of the Lalonde report, McGinnis technical officials of the United States Ministry of Health and Welfare has launched a new national health policy of Healthy People. Then in 1986, Healthy Cities, which is improved to contribute to the promotion of health and environment of the city-wide (Healthy City), "Ottawa Charter" was adopted. 1987, Healthy Cities movement was started in Europe, then spread around the world in a short period of time. Healthy Cities movement has various forms different regional characteristics of each regions are deployed. In 2003, Tonghua county has take participate in the Alliance for Healthy Cities ,and 2010, Healthy Cities movement began in Tonghua city's range.

This research compared and analysis (such as Nagareyama mainly) Healthy Cities program in Japan to the Healthy Cities program of Tonghua City, and paid attention to the community health, to provide a more effective approach of Healthy Cities promotion. From the promotion of (GNH in Bhutan) community health to promote the living rich, healthy of Tonghua citizens, and the region further activated.

Keywords: Healthy Cities Community healthy Happiness Nagareyama City Tonghua City

キーワード：健康都市 コミュニティ健康 幸福感 流山市 通化市

〈論文構成〉

第一章 序論

- 1.1 研究背景
- 1.2 研究目的
- 1.3 研究方法

1.4 先行研究

- 1.4-1 用語の定義
- 1.4-2 健康都市の主要内容
- 1.4-3 本論文の健康都市の構成

第一章のまとめ	5.1 流山市と通化市の比較意義
第2章 ブータンの国民幸福度（GNH）との関連	5.2 流山市と通化市において健康都市推進の背景環境についての比較
2.1 ブータンという国について	5.3 流山市と通化市で実施したアンケート結果の比較
2.2 ブータンとGNH	第五章のまとめ
第二章のまとめ	第6章 結論
第3章 日本の健康都市について	6.1 健康都市運動の歴史
3.1 流山市の概況	6.2 本文の健康都市の構成
3.2 流山市の健康都市プログラム	6.3 日本における健康都市運動の主要内容
3.3 流山市の福祉会館	6.4 通化市の健康都市運動
3.4 日本の健康都市運動	6.5 健康都市を目指す基本的な方針
第三章のまとめ	6.6 流山市と通化市に進行している健康都市運動の主要形式の比較
第4章 通化市に行う健康都市運動	6.7 これからの課題
4.1 通化市の概況	参考・引用文献
4.2 通化市に行う健康都市運動の主体	謝辞
4.3 通化市の行う現地調査及びアンケート結果	付録
第四章のまとめ	
第5章 通化市と流山市のアンケート比較分析	

〈要約〉

第2次世界大戦後、世界の都市化は急速に進行している。同時に、医学技術がめざましい成果が遂げた。1974年にカナダのラロンド保健大臣による報告書が発表され、公衆衛生活動をそれまでの疾病予防から健康増進へ重点を移した。1979年、ラロンド報告の基本概念に基づいて、米国厚生省のマクギニス技官はHealthy Peopleという新たな国民的健康政策を打ち出した。そこで1986年、キックブッシュらは町全体の環境を健康増進に寄与するように改善された健康都市（Healthy City）を想定し、『オタワ憲章』が採択されたことによることである。翌年、健康都市運動が始められた。ヨーロッパでは1987年（昭和62年）から30の都市が参加する健康都市プロジェクトがスタートした。運動は短期間に世界中に広まり、それぞれの地域特性に応じた様々な形の健康都市運動が展開されている。2003年、通化市の通化県が健康都市連合に参加を承認された。2010年に至って、通化市全市範囲に健康都市運動がはじまった。しかし、現在のグローバリゼーション、急速な都市化の流れは地球規模でインフォーマルセクターの割合、スラム人口割合を増大させ、依然として、健康都市への方向づけは不透明になっている。

本文の研究目的は通化市の健康都市運動を日本の健康都市運動（主に流山市など）と比較分析し、コミュニティの側面を着眼し、健康都市運動のより有効なアプローチを提供することを目指す。幅広い分野の参加と連携を通じて都市全体で実現させ、コミュニティ健康（ブータンのGNH）の推進、通化市民の健康で豊かな暮らしづくり、更に地域活性化を図ることが上位目標とする。主要な研究方法は文献調査（世界の事例、健康都市に関する論文、流山市の事例、ブータンのGNH）、現地調査（通化市、流山市）とアンケート調査（通化市）である。

結論：

1. 18 世紀の工業革命による都市環境悪化を起源として、第二次世界大戦後、都市化の急激な進行と医学技術の進歩により、1986 年（昭和 61 年）に『オタワ憲章』¹が健康都市の概念として採択され、翌年、都市の環境全体を健全なものにしていこうという健康都市運動が始まった。現在のグローバリゼーション、急速な都市化の流れは地球規模でインフォーマルセクターの割合、スラム人口割合を増大させ、依然として、健康都市への方向づけは不透明になっている。健康都市の考え方の背景には、グローバリゼーション批判、持続可能性の追求、生活価値の転換などを多様な視点が込められているように思える。
2. コミュニティは、地縁的なまとまり、公共の規範—公共団体、共有規範に基づく定住集団、基礎的社会集団（藤井敏信）と定義される。即ち、健康はコミュニティが機能する上で必要な要因であり、コミュニティのメンバーは健康に一定の関心を持ち、受益することでコミュニティ質を担保している。
3. 健康都市の構成：本文の健康都市というのは市民の身体健康、コミュニティ健康、都市環境健康の有機結合ということである。換言でいえば、物理的な健康だけではなく、居民幸福感も本論文の重要な研究目標になる。本論文にてコミュニティ健康の面に焦点を当てることになる。コミュニティ健康について、事例研究の手法を採取した。ブータンの GNH の内容からみると、コミュニティ健康(本文に使われる広義的な意味のコミュニティ健康)が GNH の重要な部分だということが思われ、換言でいえば、ブータンの GNH はコミュニティ健康の一つの事例と考えられる。
4. 日本における健康都市運動の主要内容：文献調査や現地調査により、流山市では、健康都市運動の典型例として、福祉施策を中心として行うことがわかった。流山市にある福祉会館は流山市健康都市プログラムの推進力であり、福祉会館がボトムアップの形式で活動していることはコミュニティ活動が盛んである証左である。大和市、市川市等、数多く市で実施されている健康都市運動の取り組みも同様である。その他、例えば神戸市は「神戸医療産業都市」の計画プロセスを通じ、医療産業が立地する強みをいかしつつ、健康都市を実現させている。
5. 通化市の健康都市運動：通化市の健康都市運動では、主に医療衛生保健のインフラ整備、都市と農村医療保険などの分野を進めている。通化市の現地調査とアンケート調査を結び付けてみると、通化市のインフラ整備の不備、地域的特色として、通化市民が誇りにおもっているのは、鉄鋼会社、ワイン会社及び製薬会社であることが分かった。会社自体が有名であることは理由の一つであるが、会社で勤務して経済的にも恵まれていることも理由であると考えられる。仕事の提供、或いは市民の所得を保障していることも都市健康の一環ではないかと思われる。コミュニティ健康についての調査項目では、家族と人間関係の順調さの評価が非常に高い。通化市市民にとって、家族は何よりも重要であることが分か

¹ 【オタワ憲章】1986 年、カナダのオタワにおいて第 1 回世界ヘルスプロモーション会議が開催され、その成果がオタワ憲章としてまとめられた。憲章のなかで、ヘルスプロモーションは、「自らの健康を決定づける要因を、自らよりよくコントロールできるようにしていくこと」と定義されている。

った。しかし、コミュニティ活動への興味を持つ層は主に高齢者に集中し、全体としては関心が薄いことが分かった。こういう面から考えれば、家族関係と人間関係の面は通化市の優位性と言え、コミュニティ健康を推進する一つのポイントになるのではないかと考えられる。

6. 健康都市を目指す基本的な方針：居民が心身共に健康である環境づくり。つまり、都市環境の整備、清潔な水や空気、コミュニティ健康、居民の幸福感の享受。

7. 流山市と通化市に進行している健康都市運動の主要形式の比較：健康都市運動を進行しているまちの事例として、流山市と通化市を主要フィールドにしてあげました。流山市は主に福祉計画の形で進行し、特に福祉会館はボトムアップの代表例になることが調査を通じて明らかにした。一方、通化市には、通化市の健康都市運動主に医療衛生保健の基礎施設建設、都市と農村医療保険などの分野に進めていることが考えられる。

これからの課題：

第一に、通化市の健康都市運動は政府側の政策に依拠する状況にある。しかし、向後は市民の要望を一層重視するとともに、住民の要望が政府側に迅速かつ正確に伝わるための方策を検討することが課題であると考えられる。

第二に、化市における健康都市運動の進捗は、市の各区、市、県によりバラ張りである。最初に健康都市運動を開始した通化県については成果をあげている。しかし、通化市区（東昌区、二道江区）と梅河口市、集安市、柳河県、輝南県は2010年から始まったに過ぎない。進み具合はまちまちであり、通化市区とその他の市、県との差も著しい。均衡ある発展はこれからの課題であると考えられる。

第三に、健康都市運動については、コミュニティにおける健康を地域の特色と結び付けて推進することが今後の各地域の課題だろう。